

幹本申15号「東北新幹線列車分離に伴う当面の対策の実施体制変更に関する緊急申し入れ」の団体交渉を行う！②

2. 分併作業時の当面の対策については、引き続き検修社員による体制を構築すること。

◎組合の主張

- ・治具着脱作業は、この間検修社員同士でフォローしながら作業を行ってきた。また、治具着脱の際にある細かい部分（抜け止めのゴムが伸びているなど）について乗務員が判断、対応できるのかという不安がある。
- ・体制変更で乗務員とのコミュニケーションが課題だと思う検修社員の声は多い。課題解決のためにも、例えば検修社員が乗務員と一緒に現車訓練を行うといったことも必要ではないか？
- ・そもそも検修職場において体制変更についてきちんとした周知がされていない。その事で不信感を持っている社員もいる。現場にしっかりと情報を伝えてほしい。
- ・当面の対策実施により検修職場で要員の手配に苦勞している現実はあるが、一方でインターンシップなども行われており、そのために通常の検査体制を変更している部分もある。人材育成の必要性は理解するが、通常と異なる状況下においては優先順位があるのではないか？
- ・第1項でも議論となったが、この体制変更に対し現場には理解や納得感というものがない。検修職場の厳しい状況は理解するが「決まったからやってくれ」「やり方は教えるからその通りにすればよい」といった対応では拒否感しか生まれない。「チーム」「連携」「平準化」などと言われても全く響かない。
- ・必要な教育や周知、そのための資料の拡充などを行うというが、それで本当に開始日までに体制変更の準備が間に合うのか？見直しが必要ではないか？
- ・職場でどのような教育、周知が実施されているのか新幹線統括本部としてしっかり把握していただきたい。

◎会社の回答

- ・検修社員の体制は超勤対応などの体制もあり、健康管理に課題がある。
- ・訓練方法については各職場に任せているが、現車を使った方がよい、検修社員が入った方がよいということがあれば各職場と連携して対応していくことは考えたい。
- ・同じセクションの社員同士の方がコミュニケーションを取りやすいというのはあるが、乗務員と検修社員がしっかりと連携を取るということも業務上重要である。
- ・検修職場への周知といった部分については、事情があり出遅れた面があった。今後改善していきたい。
- ・各現場の状況もあるが、人材育成も進めていかななくてはならない。バランスを取りつつ進めていく。
- ・いま現在も周知はしている状況ではある。引き続き教育資料の拡充、丁寧な周知、説明を行っていく。
- ・開始日は各箇所とすり合わせを行って決めてきた。資料や周知の補足など必要な対応は行いつつ、当初の開始日に向けて現場が納得感を持てるように進めていきたい。
- ・各箇所の周知、教育について引き続き把握に努めていきたいと考えている。

命と安全を守るために、現場の「納得感」が重要だと訴える！